

ふるさとの医療を担う！

2022年度 広島大学医学部医学科

# ふるさと枠のご案内



広島大学



広島県  
Hiroshima Prefecture

## 地域医療を担う医師の育成について



広島大学長 越智 光夫

今日、我が国は、少子高齢化の急速な進展、総人口の減少など、大きな転換期を迎えています。厳しい社会環境の中で、広島県においては、特に中山間地域の医療を担う医師と特定の診療科の医師不足が深刻です。

こうした中、平成20年には「みんなで守ろう広島県の医療」緊急アピール」が発表され、平成21年から広島大学と広島県が連携して、将来広島県での医療を担う人材を育てるため「ふるさと枠入試」を開始いたしました。

幸いにも平成21年に5名、平成22年から平成24年には各年15名、平成25年以降には各年18名と順調に優秀な学生が入学し、一般学生とともに学業に励みながら、充実したキャンパスライフを送っています。これまでに212名の方が入学し、そのうち101名が既に卒業され、現在、県内の公的医療機関等で臨床研修や実地臨床に励んでいます。

このふるさと枠で「診療科の選択の自由がない」とか「先進的な医療の勉強ができない」といったことはまったくありません。「総合医」や「専門医」になるのも基本的には自由です。広島の医療に強い関心を持ち、広島県内で医療

人として活躍したい、医療を通じて社会貢献を果たしたいという方を広島大学は全力で応援します。

どうぞ奮ってご応募いただきますようお願いいたします。

## ふるさと枠をめざす皆さんへ



広島県知事 湯崎 秀彦

広島県では、新たに令和3年度を始期とする総合計画「安心▷誇り▷挑戦ひろしまビジョン」を策定し、「全ての県民が、質の高い医療・介護サービスを受けることができ、住み慣れた地域で安心して暮らし続けることができる広島県の実現」を未来のあるべき姿に位置付けて取組を進めています。

県内には、多くの中山間地域や島嶼部があり、過疎・高齢化や、人口減少が進む中で、地域の医療をどのように守り・支えていくかが大きな課題となっています。

そうした中、県内の地域医療を支える医師の育成を目的とする「ふるさと枠」制度によって、これまでに101名が卒業し、現在、臨床研修を修了した68名が県内各地で勤務を開始しております。そのうち26名が医師不足に悩む中山間地域の医療現場で、また10名が医師不足の特に著しい診療科で活躍するなど、県内地域医療において大きな役割を担う存在となっています。

また、本県では、県内地域医療体制を確保するため、広島大学に「地域医療システム学講座」を設置し、地域医療を学ぶ教育活動をはじめ、中山間地域で勤務する医師のキャリア形成への助言や支援なども合わせて進めるなど、県内地域

医療を担う医師の育成に精力的に取り組んでいます。

大学での学びはもとより、この制度を通じて育まれる絆や繋がりが、将来、県内の地域医療を支える大きな力として一層発展していくことを、心から期待しています。

是非、みなさんも、高い志と熱意を持って「ふるさと枠」を目指していただき、ご自身が描く将来像が、心身ともに充実した形となって実現し、地域医療への想いを共にする仲間とともに、本県の医療を支える力として活躍されることを願っています。

2009年の制度開始から現在まで、**101名**の卒業生を輩出しています

各学年**18名**の学生が在籍中です

2015年～2021年累積ふるさと枠医師国家試験合格率は**98.0%**です  
(広島大学医学部医学科は88.8%です)

卒業後は、毎年**同窓会**で絆を深めます

# 「広島地域医療を支えたい」という想いを、 ふるさと枠でより確かな形にしませんか



令和3年度は、広島大学医学部ふるさと枠を卒業し初期臨床研修を終了した若手医師68名が、市立三次中央病院、安芸太田病院、庄原赤十字病院等の県内各地の医療機関に着任し、地域医療を支える大きな力となっています。広島大学のふるさと枠の学生は、医療のみならずあらゆることに対してモチベーションが高く成績も優秀な学生が多く、クラブ等の課外活動でも活躍しているのが特徴です。広島大学医学部では、広島県と協力し、ふるさと枠の学生が豊かな人間性や地域へ愛情を育み、さらに医師としての確かな実力を養えるように教育を行っています。また、ふるさと枠出身の医師が、将来、「総合医」を目指す場合でも、あるいは「専門医」を目指すいずれの場合でも十分な研修ができるよう医学部全体で配慮をしています。

広島県の医療を良くしようという気概に溢れるふるさと枠出身の医師が、今後の広島県の医療の未来を築いてゆくことを願っています。

広島大学医学部長 粟井 和夫



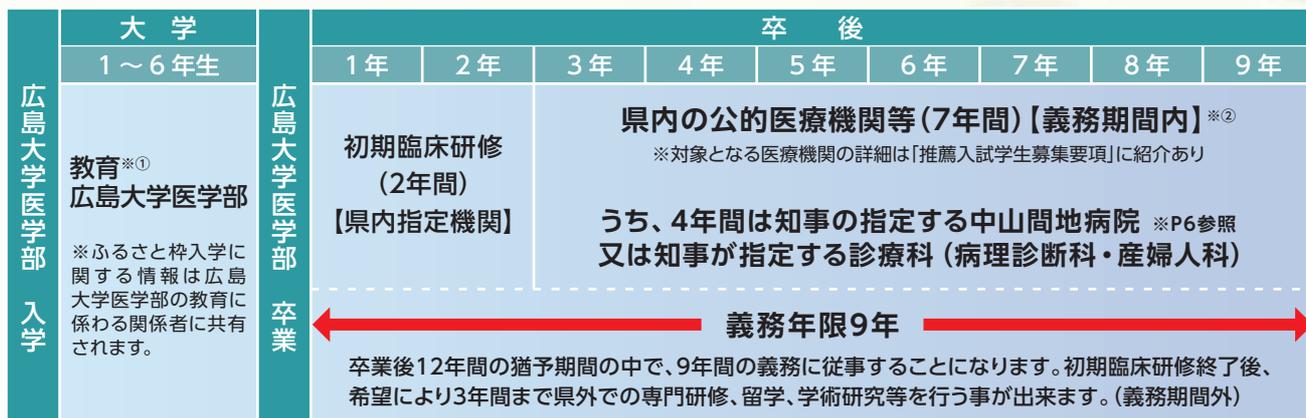
広島大学医学部ふるさと枠は、県内中山間地域等の医療を守るため、広島県と広島大学が一体となって、本県の地域医療を担い・支える情熱を持った医師を育てていく制度です。入学者が、卒業するまでの間に、貸与を受ける奨学金の原資の多くは、県民の皆様から託された税金で賄われており、医師不足に悩む地域から大きな期待が寄せられています。

地域医療の現場において、医師は診療のみならず、福祉・介護分野等の様々な専門職と協力しながら住民の生活全般を支えていくという大きな役割が期待されています。こうした役割を若くして担うふるさと枠の医師が得られる経験は、将来の糧として貴重なものとなるでしょう。

県としても、地域医療を志す皆さんの熱意や希望に対して、しっかり支援していきますので、本県が掲げる目指す姿「全ての県民が、質の高い医療・介護サービスを受けることができ、住み慣れた地域で安心して暮らし続けることができる広島県」を一緒に実現しましょう。

広島県健康福祉局長 木下 栄作

## 入学から卒後の進路

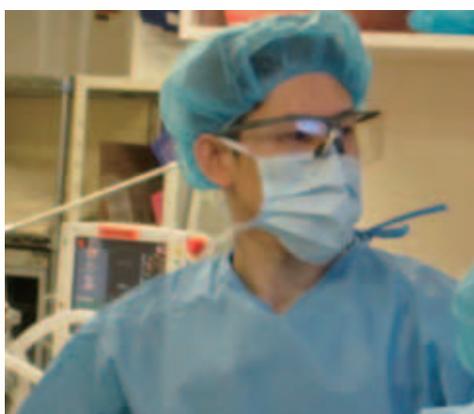


# 広島県内各地で活躍中のふるさと卒医師からのメッセージ



庄原赤十字病院 循環器内科 大澤文乃  
(1期生 2015年卒)

現在は庄原赤十字病院で勤務をしています。地域の方々からの期待をひしひしと感じ、ふるさと卒生に対する周囲の注目を日々実感しています。注目度が高い分責任も感じておりますが、繋がりのある自治医科大学の先輩先生方と一緒に働くので、不安は軽減されています。ぜひ熱意と責任感のある学生さんに受験してほしいと思います。



庄原赤十字病院 循環器内科 小島啓史  
(1期生 2015年卒)

医師7年目を迎え、現在は循環器内科医として勤務しています。我々の意見を十分に取り入れていただいたキャリアプランを歩み出して、地域で働きながらそれぞれの科の専門性を高めつつ高齢者医療、全人的医療の実践に取り組んでいます。ふるさと卒卒業生の医師も増え、地域医療あるいは県全域の医療におけるふるさと卒の重要性・意義を年々強く感じるようになりました。みなさんもその一員として一緒に働いてみませんか。



JA吉田総合病院 外科 唐口望実  
(1期生 2015年卒)

私は、ふるさと卒出身の医師ということを特別に意識することはありません。しかし、中山間地域の病院で働くに当たり、大学生時のふるさと卒の実習等を想起してモチベーションをもちやすいかもしれません。どんな地域でも必要とする人がいるから病院があり、医師を求められます。都市部に比べて医療のレベルはやはり限られますが、限られた環境の中で質の良い医療を提供することを常に考えながら診療にあたることは非常にやりがいを感じます。



広島大学病院 病理診断科 神原貴大  
(2期生 2016年卒)

ふるさと卒では広島県の医療への理解を、地域医療を中心に広い視点で深めることができます。自分の将来像を具体的に思い描きやすいため、医師として広島県の医療に関わりたいけれど思いばかり先行して不安だ、という方にこそお勧めです。私は講義や実習の経験も踏まえ、中山間地域同様に医師不足が続き、知事指定診療科となっている病理診断科の医師として県の医療を支える道を選びました。病理診断科では患者さんの診療と密接に関係する病理診断や、病気の本質と向き合う研究、あるいは病理解剖をおこなっており、興味の尽きない領域であると私は実感しています。医師としてどのように広島と関わりたいか、ふるさと卒でじっくり考えてみませんか?同志として働ける日を楽しみにしています。



**広島市立安佐市民病院 循環器内科 島尻寛人**  
(3期生 2017年卒)

循環器内科医として庄原赤十字病院で2年間勤務した後、現在は安佐市民病院に勤めています。日本は類まれな高齢化社会を迎えており、高齢化率が著しい中山間地域での医療需要は高いと言われています。循環器内科医として、とりわけ高齢化率の高い庄原で勤めて、心不全などの高齢化に伴って増える疾患の重要性を認識し、やりがいを感じています。また、地域の患者さんや医療スタッフは優しく温かい方が多く、人との強い繋がりは仕事の活力となっています。また自然豊かな環境で休日を過ごしたり、田舎の美味しいご飯を食べたりできるのも地域医療の大きな魅力だと思います。



**広島大学病院 小児科 谷本綾子**  
(3期生 2017年卒)

私は小児科医として舟入市民病院、県立広島病院で一般小児疾患、新生児疾患の分野で1年ずつ研修し、現在は大学病院で勤務し、秋から中山間地域で勤務予定です。小児科医は日々成長していく子ども達を近くでサポートしていく、いわば「こどもの総合医」ですが、困ったときに相談できるふるさと枠の仲間が他科で活躍していることは大変心強いです。ぜひ専門性を持ちつつもgeneral mindを持った医師と一緒に目指してみませんか。



**市立三次中央病院 産婦人科 益野麻由**  
(5期生 2019年卒)

皆様こんにちは。私は現在、市立三次中央病院で産婦人科医として勤務を始め数カ月が経ちました。産婦人科は知事指定診療科となり、義務年限期間中も産婦人科医として働くことができます。一般枠の方とほぼ同様のキャリアプランで、専門医取得に必要な症例も揃っており、安心して毎日多くの事を学ばせていただきながら日々の診療をしています。プライベートでも、コロナ渦で遠出はできませんが、SNSで情報収集しつつ三次市内の紫陽花の素敵な神社に行ったりしています。仕事も学びもプライベートも充実させながら、一緒に地域医療を支えてみませんか？



**公立みつぎ総合病院 初期研修医 岸彩夏**  
(6期生 2020年卒)

私は地域包括ケアシステム発症の地である、公立みつぎ総合病院で初期研修を行っています。中山間地域の病院では、学生時代から実習等を共にしたふるさと枠の先輩医師がすでに多く活躍されており、大変心強いです。まだまだ勉強中の身ですが、地域住民の様々な健康問題に柔軟に対応できるよう日々取り組んでいます。皆様が、私たちのふるさと広島の地域医療を支える仲間となることを、心よりお待ちしております。

# 知事の指定する中山間地病院 (4年間勤務)

※県内の公立診療所も知事の指定する医療機関に含まれます。



庄原赤十字病院



西城市民病院



市立三次中央病院



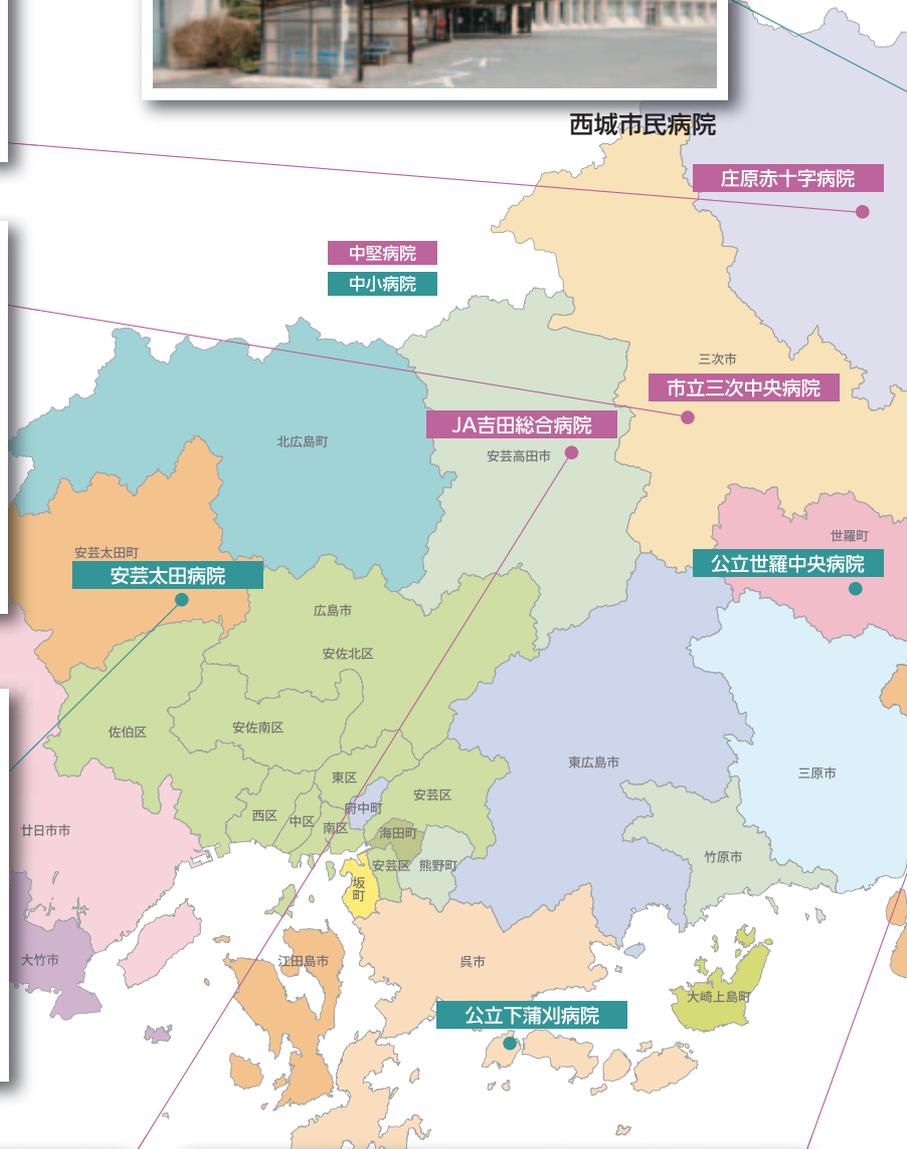
安芸太田病院



JA吉田総合病院



公立みつぎ総合病院



# 進路に関する基本方針

臨床研修は広島大学病院を基本とします。(広島県内必須)

卒後3年目以降は広島大学各診療科への入局を原則とします。

中山間地の4年間は総合医を原則としますが、医療機関からの要望があれば専門科医として勤務します。

## 令和3(2021)年度ふるさと卒医師勤務状況(卒後3年目以上)



専攻診療科名等	中山間地域指定医療機関										小計	※中山間地域以外の医療機関	計	
	中堅病院				中小病院									
	公立みつぎ総合病院	市立三次中央病院	庄原赤十字病院	JA吉田総合病院	公立下蒲刈病院	府中市市民病院	府中北市民病院	府中市湯が丘病院	西城市民病院	安芸太田病院				公立世羅中央病院
総合内科・総合診療科	1											1		1
消化器・代謝内科		3	3									6	4	10
呼吸器内科		1		1								2		2
腎臓内科		1	1									2		2
脳神経内科													4	4
循環器内科		2	2					1	1			6	2	8
血液・腫瘍内科		1										1		1
リウマチ・膠原病科													1	1
小児科		(1) 10月~										(1)	2	2
皮膚科													1	1
外科													1	1
消化器・移植外科				1								1	1	2
腫瘍外科										1		1	2	3
腎泌尿器科													1	1
整形外科		1										1	1	2
脳神経外科													1	1
放射線診断科													1	1
麻酔科		1										1	3	4
救急集中治療科		(1) 10月~										(1)	3	3
リハビリテーション科	2									2		4	1	5
精神科													1	1
非入局													2	2
小計	3	10	6	2				1	1	3		26	32	58
産科婦人科(知事指定)		2										2	6	8
病理診断科(知事指定)													2	2
計	3	12	6	2				1	1	3		28	40	68
(参考) 令和2年度勤務人数	3	10	5	2					2			22	28	50

※中山間地域以外の医療機関

広島市民病院(広島市)、広島赤十字・原爆病院(広島市)、舟入市民病院(広島市)、**広島大学病院(広島市)**、**県立広島病院(広島市)**、広島市総合リハビリテーションセンターリハビリテーション病院(広島市)、**安佐市民病院(広島市)**、安芸市民病院(広島市)、福山医療センター(福山市)、福山市民病院(福山市)、広島県立福山若草園(福山市)、**中国労災病院(呉市)**、**呉医療センター(呉市)**、済生会呉病院(呉市)、三原赤十字病院(三原市)、尾道市立市民病院(尾道市)、**JA尾道総合病院(尾道市)**、済生会広島病院(坂町)、広島西医療センター(大竹市)、**JA広島総合病院(廿日市市)**、**東広島医療センター(東広島市)**、賀茂精神医療センター(東広島市)、県立安芸津病院(東広島市)、広島県立障害者リハビリテーションセンター医療センター(東広島市)、広島県立障害者療育支援センターわかば療育園(東広島市)

※赤文字は現在勤務中の医療機関です。(2021.06 現在)

## みなさんの学生生活を応援します！



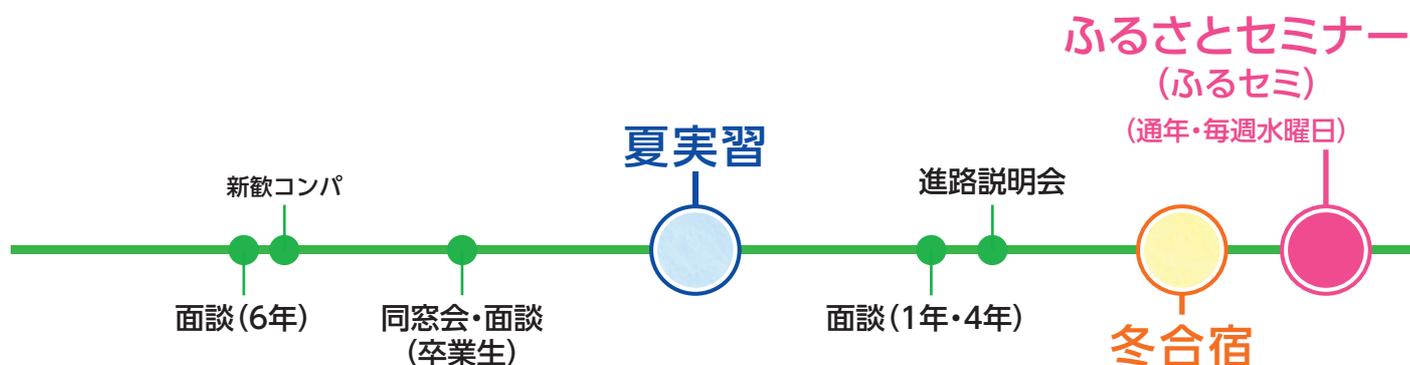
ふるさと枠は広島県の医療、特に医療に恵まれない中山間地域や医師不足の著しい分野の医療を担うために設置された制度です。

当講座のミッションは、ふるさと枠の学生の皆さんが充実した学生生活を過ごせるように、また卒後の進路に夢を持てるようにすることです。広島大学在学中も卒業後も、皆さんの不安が起こらないように、一人一人の思いを聞きながら支援したいと考えています。

入学後から定期的にミーティングをしながら、たくさんの企画を準備しております。広島県の地域医療を引っ張っていけるような人材に育てていただきたいと願っております。

地域医療システム学講座 教授 松本正俊

## 年間スケジュール



### 夏実習



コロナウイルス感染拡大防止の観点により令和2年度はオンラインにて行いました！

ふるさと枠の魅力の一つとして、地域医療について学ぶ機会が多く設けられているという点が挙げられます。毎年8月に行われる夏実習では、実際に地域の方々の健康を守ることを使命に診療所で勤務されている先生方の姿を見て、将来の理想像を明確にし、勉強に対するモチベーションを上げることができます。

来年度、皆さんとふるさと枠のメンバーとして同じ夢に向けて挑戦できるのを楽しみにしています！

医学科3年生 井上つぐみ

## ふるさとセミナー (ふるセミ)



ふるさと枠の学生は、週に一度、ふるさとセミナー(通称"ふるセミ")に参加することになっています。そこでは、班に分かれて、先輩方が様々な企画を用意して下さいます。また、縦割りの班になっているので、多くの先輩と仲良くなれます。地域医療についての知識を得ることができ、先輩方とも交流できるこのセミナーを、僕は毎週とても楽しみにしています。

ふるさと枠のメンバーは皆、優しくてステキな人ばかりです。みなさんも是非、ふるさと枠で共に高め合っていきましょう!

医学科3年生 本多晃嗣郎



平成30年撮影



## 春実習

追いコン



## 冬合宿

コロナウイルス  
感染拡大防止の観点により  
令和2年度はオンラインにて  
行いました!



ふるさと枠の魅力はなんといっても地域医療実習や、ふるセミ(毎週水曜日に行われる昼食会)だと思います。地域医療についての知識を深めることができ、さらに地域医療の行われている場所で実際の現場を知り、体験することが出来るというのは、将来のためにも、今の自分にとってもかけがえのない経験だと考えるからです。

地域医療実習のひとつである冬実習では、地域医療の現場で働く医師の方や、ふるさと枠出身の先生から、地域医療の現状や現場の様子などを伺うことができます。また、1年生から4年生までが参加する実習なので他学年のふるさと枠の人々と仲を深めることもできます。

このような貴重な体験が得られるのはふるさと枠ならではの魅力です!ぜひ、充実した有意義な学生生活をふるさと枠で送ってみませんか??

医学科4年生 谷菜穂



令和元年撮影

## その他に...



### ○面談

(1年生、4年生、6年生)

学生1~2名と教員1~2名で学業のこと、大学生活やバイトのこと、進路のことなどをお話します。

### ○進路説明会

(4年生、5年生)

臨床研修マッチング制度や臨床研修後のキャリアプランについてお話します。



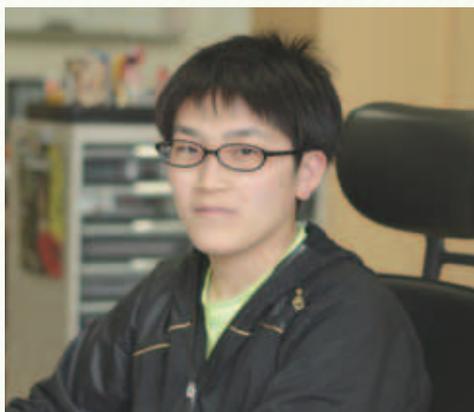
令和元年撮影

### ○同窓会・面談

卒業生が近況を報告しあいます。卒業生と大学教員の面談も行います。

### ○新歓コンパ

### ○追いコン



### 医学科6年生 塚原一樹

僕がふるさと枠での活動を通して最も得られたものは『人とのつながり』です。毎週水曜日に行われるセミナーや夏と冬の実習の縦割り班での学習・ディスカッションを通して、ふるさと枠の先輩・後輩との『つながり』ができます。さらに、夏の実習では実際に中山間地域や島しょ部の医療機関へ行き、見学し、その医療機関の方々との交流会に参加することで、地域医療を担う大先輩との『つながり』もできます。僕はこの『つながり』が将来、医師として地域で働くことにおいて重要なものだと思います。

皆さんもふるさと枠で広島の地域医療を支える『つながり』の輪に加わりませんか？



### 医学科6年生 大野真実

毎年8月に行われる夏実習は、ふるさと枠の最大の特徴であり、また魅力でもあります。広島大学や自治医科大学等の1～4年生が縦割り班になり、一泊二日で医療機関での実習にあたります。この実習はただ病院見学をするのではなく、実際に利用している方の生の声を聞き、生活に触れ、地域の雰囲気を感じ、医療を支えている方の思いを知ることが出来ます。地域を丸ごと感じとる事は、将来地域医療を担う私達にとって大きな学びになります。



### 医学科5年生 伊藤大起

ふるさと枠の魅力の一つとして、夏季長期休暇中に行われる地域医療実習が挙げられます。この実習ではふるさと枠の先輩後輩とともに地域の中核病院や診療所に足を運び、地域医療を直接肌で感じる事が出来ます。医療現場に赴くことで日々の勉強のモチベーションが上がることは間違いありませんし、学年を重ねるごとに知識も増え、より楽しい実習となるでしょう。現地の医師や医療スタッフとの懇親会も行われ、おいしい食事をいただきながら地域医療現場の生の声を聞くことが出来るのもこの実習の利点です。

ふるさと枠の生徒は個性豊かな仲間たちばかりで、地域医療実習を含め、ふるさと枠の集まりは楽しみなものばかりとなっています。ぜひ一緒に実りある経験をしましょう！



### 医学科5年生 村上真央

私は、ふるさと枠で入学したことにより、縦のつながりが本当に広がったと感じています。医学科は大学生活を送る上で、勉強をはじめ、やらなければいけない事が多くあり、なかなか学年を超えてのつながりを作る時間や機会が持てません。しかし、ふるさと枠では毎週ふるさとセミナーの際に、学年を超えて、お弁当を食べながら話をする機会が設けられています。ふるさとセミの場は、とても話しやすい雰囲気になっているため、上級生とでも気軽に話すことができます。この文章を読んでいる皆さんと来年の春、また新たなつながりが持てる事を、楽しみにしています！

### 医学科4年生 國吉遼大

ふるさと枠は将来広島県の地域医療を支えるという大きな目標を土台に、同級生だけでなく先輩や後輩達と世代を超えたつながりを持つことが出来ます。そしてそのための夏、冬のセミナーなど行事も沢山あり、同じ目標に向かって進む仲間を見つけることが出来ると思います。

先生方も大学生生活だけでなく卒業してからの進路などについても相談に乗って下さり、本当に将来広島県の地域医療を担う医師となるためのサポートが充実していると思います。

将来広島県の地域医療を支えたい!という熱い思いのある皆さん。是非来年のふるさと枠としての活動でお会いしましょう。お会い出来ることを楽しみにしております。



### 医学科3年生 高橋勁草

入学して感じたふるさと枠の魅力ひとつに「人とのつながり」があると思います。ふるさと枠では、毎週行われるセミナーや長期休暇中の地域医療実習で、さまざまな学年の人と交流できます。また実際に医療現場で活躍されている先生とも直接お話する機会もあります。大学生にとって、いろいろな人と交流して刺激を受けることは、自分の将来を考える上でもとても貴重な機会だと思います。ぜひふるさと枠で充実した大学生生活を送りましょう!



### 医学科3年生 井上つぐみ

ふるさと枠の魅力の一つとして、多くの「つながり」を持つことができるという点が挙げられます。高校生の頃には想像できなかったほど膨大な勉強量をこなしていく日々の中で、今の私があるのは、一緒に勉強に励んでいるふるさと枠の仲間、自身の経験も踏まえながらアドバイスをしてくださる先生方、先輩方のおかげだと思えます。

来年度、皆さんとふるさと枠のメンバーとして新たな「つながり」を持てることを楽しみにしています!



## ふるさと枠医師の育成に関わる先生方より



庄原赤十字病院は現在までに、12名（一期生から五期生まで、再赴任者を含む）のふるさと枠出身の医師を受け入れています。そのほとんどの医師たちはこう言っています。「学生時代や初期研修医の頃には、自分自身のスキルやキャリアについて心配があった。」「今は医師としての力が日々進歩し、専門的な研修も十分にできているので毎日が楽しいし、不安もない。」

実際に彼らと一緒に仕事をして感じるのは、臨床医としての喜び・期待・さらに自己を高めたという熱心さです。ふるさと枠であるということは、何らかの縛りではなく病院からさらに視野を広げていく、より前向きなツールとして作用しています。

充実した高いレベルの専門研修、いろいろな科の医師たちとの密度の濃い交流、そして臨床医として最も大事な医療者としての基礎を学ぶ毎日。当院のふるさと枠出身者たちは、まさにその中で日々成長しています。

庄原赤十字病院 院長 中島浩一郎



ふるさと枠入学制度が始まり13年が経とうとしています。地域医療の現場の楽しさや仕事のやりがいを医学生や若い医師に伝えるべく、日々奮闘しています。

地域医療は、プライマリーケアそのものであり、各科を超えたさまざまな疾患の初期診療、救急医療、生活習慣病などの慢性期医療、終末期医療、高齢者医療、在宅医療、介護問題、地域連携などなど、その内容は多岐にわたり、医師として大変やりがいのある、魅力ある仕事です。医師としての根源的な喜びを味わうことのできる現場といってもいいかもしれません。また、地域医療はその地域を活性化する一躍を担っています。「ふるさと枠」の仲間で地域医療をもっともっと楽しく、魅力あるものにしてゆきましょう。

神石高原町立病院 副院長 服部文子



# 「広島大学ふるさと卒卒業医師に係るキャリアプラン」について

「広島大学ふるさと卒卒業医師に係るキャリアプラン」は、卒業生の能力の向上や、目指す診療科の専門医認定が得られるように、勤務先やローテーション方針等を定めた標準的な育成計画です。  
卒業生は、必要従事期間が終了して奨学金の返還免除を受けるまでの間、このプランに沿って県内の地域医療に貢献しながら、併せて能力の向上を図ります。

## 《キャリアプランの概要》

### 1 ふるさと卒卒業医師の所属

卒業生は、初期臨床研修(2年間)修了時まで、次のコース(①～③)のいずれかを選択します。

選択コース		補定等	
A	広島大学病院 各診療科等所属コース	中山間地サブコース(①)	下記以外の診療科(26診療科※1) (診療科毎の標準的なプランを用意)
		知事指定診療科サブコース(②)	病理診断科・産婦人科(標準的なプランを用意)
B	地域専攻コース ※個別の診療科への所属を 希望しない方	中山間地サブコース(③)	「広島大学地域医療システム学講座」及び 「広島県地域医療支援センター」がサポート して具体プランを作成

### 2 中山間地域等指定機関での勤務について(配置ガイドライン)

- 中山間地域等指定機関を『中堅病院』(4機関)と『中小病院』(8機関)に分類※2(P.7表参照)し、中山間地域での4年間の勤務のうち、『中小病院』には、原則2年、少なくとも1年以上は、常勤として勤務します。(知事指定診療科サブコース(②)選択者は除く。)
- 中山間地域での勤務は、総合医(総合診療医・一般内科医・一般外科医)としての勤務を原則としますが、中山間地域等指定機関から要望がある場合は、専門科医として勤務します。

【例】広島大学病院・中山間地サブコース(①)「総合診療科」標準的キャリアプラン

卒後年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	7年	8年	9年	10年	11年	12年
勤務先等	初期臨床研修 (県内指定機関)		大学病院	中山間地の 中堅病院 内科・総合診療科勤務	中山間地の 中小病院 内科・総合診療科勤務	大学病院 社会人大学院入学(希望者) 総合診療専門医試験	中山間地の 中堅病院 内科・総合診療科勤務	中山間地の 中小病院 内科・総合診療科勤務 内科専門医試験(希望者)	関連病院(指定機関) 内科・総合診療科勤務			
												〔必要従事期間終了〕

(大学院入学年度は、希望に配慮)

(注) 中山間地サブコース①の診療科の構成(※1)や、中山間地域等指定機関の分類(※2)は、後年において変更となる場合があります。



# 「広島県医師育成奨学金」について(概要)

(広島県健康福祉局医療介護人材課)

- 広島大学医学部ふるさと枠へ入学された方は、大学在学中の6年間に、広島県から「広島県医師育成奨学金」の貸与を受けることとなります。
- 大学卒業後から一定の期間、県内の地域医療を守るための指定医療機関での勤務を行っていただくことで、奨学金の返還は全額免除となります。
- 県内での勤務は、「広島大学ふるさと枠卒業医師に係るキャリアプラン」に沿って行っていただきます。

## ◆貸付額◆ 月額20万円(6年間の総額:1,440万円)

※奨学金の貸付けには、貸付日の翌日から、貸付期間の終了月の末日(6学年の3月末日)までの日数に応じて、民法で規定する法定利率で計算した利息が付きます。(R3.4月現在の法定利率:年3%)

## ◆貸与期間◆ 6年間(大学の通常の修業年限(通算6年間)を超えることはできません)

## ◆返還免除◆ 大学医学部の卒業後から12年間(貸付期間の2倍に相当する「返還猶予期間」)までに、別に定める基準(キャリアプラン)に沿って、次の要件1・2を共に満たすことで、奨学金(利息を含む。)の返還が、全額免除されます。

### 【要件1】

貸付期間の1.5倍に相当する9年間(必要従事期間)を、知事が指定する広島県内の公的医療機関等<sup>※1</sup>において医師の業務に従事する。

### 【要件2】

上記9年間(必要従事期間)のうち、4年間(広島大学病院等県内での初期臨床研修2年間を除く)を、次の①・②のいずれかで従事する。

- ① 知事が指定する県内の中山間地域等の公的医療機関<sup>※2</sup>
- ② 公的医療機関等の知事が指定する診療科(病理診断科・産婦人科<sup>※3</sup>)

※1、※2、※3については、今後、規則改正等により変更となる場合があります。

◀上記の要件を整理すると、次のとおりです。▶

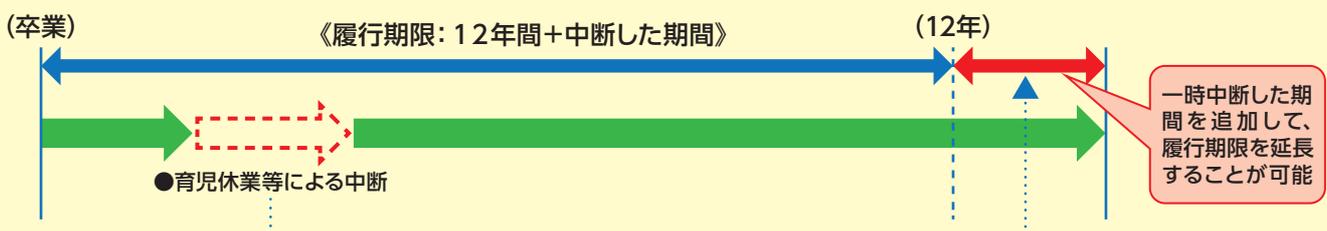
- 貸付期間：6年間
- 返還猶予期間(免除要件の履行期限)：卒業後12年間
- 必要従事期間(9年間)：県内初期臨床研修(2年) + 県内公的医療機関(7年、うち①又は②が4年)

卒年後	-	1年	2年	3年	4年	5年	6年	7年	8年	9年	10年	11年	12年
勤務等	(6学年)	初期臨床研修(2年) 【県内指定機関】		3~12年目の10年間で、7年間を県内公的医療機関等で勤務、 そのうち4年間は、中山間地域等の指定機関(又は4年間を指定診療科)で勤務 (任意の3年間を使って、県外研修や留学などの機会を得ることが可能)									

※卒業後の県内勤務は、「広島大学ふるさと枠卒業医師に係るキャリアプラン」に沿って行います。

## ◆その他◆ ※出産・育児等による勤務中断の取扱い

出産・育児(又は家族介護)を理由として、指定医療機関での勤務を一時中断(休業・離職等)した場合は、本人の希望に応じて、当該中断等した期間を返還猶予期間に追加(猶予を延長)することができます。



★指定医療機関で9年間の勤務(うち中山間地域等で4年間)

## Q 広島大学ふるさと枠の学生は、他の学生と違う学部教育を受けるのですか。

**A** 全ての授業・実習から、地域医療実習を含む臨床実習に至るまで、全く同じ内容を学習します。それとは別に、ふるさと枠学生を対象としたプログラムがあり、定期的なミーティングや休暇中のセミナーなどを実施します。ふるさと枠学生に対しては、在学中に積極的に国内外での見聞きを広め、クラスを引っ張っていく存在になれるよう、指導致します。

## Q 広島大学ふるさと枠の卒業生は、自分の行きたい「科」を選ぶことが出来るのですか？

**A** 「広島県医師育成奨学金制度の概要」に記載してある返還免除の条件2の①には、自分が将来目指す「科」について、特に制限は書かれていません。ただし、中山間地域勤務期間は原則として総合医として勤務しますので、研修中は、原則として総合医としての修練が必要です。これらの総合医としての経験は、その後総合医としてキャリアを歩む場合はもちろん、専門医を目指す場合も本人の一生の財産となります。

## Q 広島大学ふるさと枠の卒業生は、いわゆる「専門医」を目指すことは出来るのですか？

**A** 「広島県医師育成奨学金制度の概要」の返還免除の条件2の②に「知事が指定する診療科」という文言があります。これはまさに「専門医」に該当します。つまり県が「深刻な医師不足」と判断した科であれば、その科を選択することができ、その場合、勤務地は中山間地に限定されません（現在は病理診断科と産婦人科が指定されています）。次に「知事が指定する診療科」に行かない場合、中山間地域勤務期間は原則として総合医として勤務しますが、中山間地域勤務期間終了後、専門医を目指す始めることは問題ありません。また中山間地域勤務期間中も、広島大学の地域医療システム学講座と連絡をとりつつ、目指す専門医に関わる広島大学の診療科に所属し、将来の専門医取得に向けて準備を始めることが出来ます。ほぼすべての診療科がふるさと枠卒業生のためのキャリアプランを用意しています。

## Q 9年間は、先進的な医療技術の勉強ができないのではないですか？

**A** そのような心配を聞きますが、大丈夫です。まず、「総合医」を目指す場合、広島大学の地域医療システム学講座・総合診療科をはじめとした全診療科・卒後臨床研修センター、県立広島病院を中心とする県内の公的医療機関等が支援し、最先端の「総合医」を育成します。次に「専門医」を目指す場合、広島大学の診療科が中心となって全面的にバックアップします。今後、情報回線を利用したテレ・メディスンも発達し、その活動を支えます。この「ふるさと枠」は、私たち納税者・県民によって支えられる制度であり、総合医であれ専門医であれ、広島で活躍する優秀な医師を輩出することを目標と考えています。

## Q 予想されるコースについて実例を挙げていただけますか？

**A** 例えば、「初期臨床研修（県の指定医療機関）2年間」→「県内の公的病院3年間」→「県の指定する中山間地域等の公的医療機関等4年間」といったコースが実例として挙げられます。すなわち一般医学科生と大きな違いはないのです。

## 入試情報

医学部医学科推薦入試「ふるさと枠」に関する入試情報は、広島大学のホームページをご覧ください。  
<https://www.hiroshima-u.ac.jp/nyushi>



### 広島大学

#### 入試に関するお問い合わせ

〒734-8553 広島市南区霞1-2-3  
担当: 広島大学霞地区運営支援部学生支援グループ (医学部担当)  
電話: 082-257-5049

#### その他ふるさと枠全般に関するお問い合わせ

〒734-8553 広島市南区霞1-2-3  
担当: 広島大学大学院医系科学研究科地域医療システム学講座  
電話: 082-257-5894  
<http://cbms.hiroshima-u.ac.jp/index.html>



広島大学地域医療システム学講座 



### 広島県

Hiroshima Prefecture

#### 奨学金制度に関するお問い合わせ

〒730-8511 広島市中区基町10-52  
担当: 広島県健康福祉局医療介護人材課  
電話: 082-513-3062



広島県医師育成奨学金 